

平成30年度事業報告

自平成30年4月1日 至平成31年3月31日

平成の日本は戦争のない平和な時代であったと云われていますが、このことは「平和」という概念をどう捉えるかという問題があり、身近に戦争のない世の中だけを切り取って平和であると云い切るには多くの人が異論を持つかもしれません。

平成の31年間には大量無差別殺人や未曾有の自然災害、人為的災害が発生した時代でもありました。経済は数値の上では好景気が続いているとされていましたが、このベースとなる統計のあり方についての疑念が表面化し、何が真の姿を映し出しているかさ見えなくなりました。また、毎日のようにメディアを通じ、改ざん、隠蔽、虚偽などの政治不信が伏線となる国民の政治に対する無関心さが増した時代でもありました。

一方、世界では大国による自国主義政策が強引に押し進められ、政治、外交、経済に深刻な暗い影を落としております。多くの点で世界から取り残された日本は、かつてのような影響力を取り戻せるか否かの重要な分岐点に立たされ、難しい選択を迫られています。

当協会に関連の深い食品業界では、地球の将来に関わる食品ロス問題の解決に向け、賞味期限切れ商品の専門販売店の出現や、包装によるシェルフライフの延長など、少しずつ目に見える形で進むようになりました。またプラスチックによる海洋汚染に関しても、国際社会における意識変化のうねりが感じられます。

2018年度は、平成という一時代の締め括りとなる年であり、まだ先行き不透明な社会動向が続く中でしたが、当協会の事業活動は以下のような内容を実施致しました。研究例会・技術セミナー、企業見学会および勉強会においては、食品包装及びその周辺技術に関する最新情報の提供や人材育成研修講座による食品包装技術者の育成に力を入れて参りました。当協会の主事業である食品シンポジウムでは、「日本の食品包装の脱ガラパゴス化」をテーマに掲げ、日本の食品包装技術を世界標準にするための行動指針について意見交換を致しました。また、一昨年度より始めました「食品包装教育・検定システム」は、食品包装を広く知っていただくために、社会人はもとより、生活者、学生を含めた幅広い範囲を対象として内容の充実を図りました。

2018年度の新たな取組みとして、昨年11月に当協会会員相互の情報共有化を一層深めるための展示会『Next Package』を開催致しました。初めての試みということで1会場、1日のみのコンパクトな展示会でしたが、食品及び包材製造関連会社など、合わせて出品参加企業18社、来場者数180名以上を数え、充実したコミュニケーションの場となりました。この企画は今年度も規模を拡大して実施する予定です。

情報の発信という面では、国際化に対応すべくホームページ英訳版の検討に着手しました。また、「食品包装の科学」をはじめとする出版事業も積極的に進めております。

日本包装技術協会が出版する「新版包装技術便覧」の編纂にも全面的に協力をし、今年2月に発刊の運びとなりました。食品包装に関する問い合わせも年々増加しており、国内にとどまらず主にアセアン諸国を中心とした海外からも多数寄せられております。これらの対応には協会の果たす役割の一貫として丁寧に進めており、今後は要望に応じたコンサルティング業務としての体制を整えていく予定でおります。

当協会では、各事業への精力的な取り組みとともに、協会の運営体制の強化も行って参りました。会員の増強では残念ながら3社を獲得しましたが4社が退会し、個人正会員3名、賛助会員1名の増となりました。引続き本年度も新規会員獲得に努めていきたいと考えております。全体の活動経過を振り返りますと、2018年度の総収支は会員皆様のご支援により104万円（前年度6.8万円）の黒字となりました。改めてお礼を申し上げます。

法人化されて以来、組織のコンプライアンスを高め、会員の皆様に貢献できる組織にするべく努力を続けて参りましたが、今後もより一層会員の皆様の満足は勿論のこと、食品包装業界及び社会全体に貢献できる魅力のある協会にしていきたいと考えておりますので、皆様方にはこれまで以上のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成 30 年度事業実施詳細

登録会員数移動状況

会員

平成 30 年 4 月 1 日 89 社

平成 31 年 3 月 31 日 88 社 [退会 4 社、新規入会 3 社]

賛助会員

平成 30 年 4 月 1 日 6 社

平成 31 年 3 月 31 日 7 社 [新規入会 1 社]

個人会員

平成 30 年 4 月 1 日 6 名

平成 31 年 3 月 31 日 9 名 [新規入会 3 名]

名誉会員

平成 30 年 4 月 1 日 8 名

平成 31 年 3 月 31 日 8 名

平成 30 年度実施した諸事業、集会の状況

総会 1 回

包装界合同新年会 1 回

諸事業

会報“食包協”ホームページ発行 4 回

食品包装シンポジウム 1 回

食品包装人材育成研修(2 回・3 日間) 2 回 ([初級]、[中級])

食品包装技術セミナー(前期・後期) 2 回

研究例会 3 回

見学会 2 回

Next Package2018 (展示会) 1 回

勉強会 2 回

集会

理事会 2 回

運営委員会 6 回

広報企画委員会 (5 回)、シンポジウム・勉強会・見学会企画委員会 (6 回)、セミナー・研究例会企画委員会 (4 回)、人材育成・検定企画委員会 (2 回)、新規事業企画委員会 (6 回) 計 23 回

平成 30 年度通常総会及び記念講演

日 時：平成 30 年 4 月 27 日 (金) 10:00～12:00

場 所：(株)印刷会館会議室

通常総会（10:00～11:00）、記念講演・石谷理事長（11:00～12:00）

出席者：委任状含めて81名（会員総数102名）過半数で総会成立

議 事：小国副理事長が議長に選任され、議事録署名人に、味の素(株) 金子晴海様と興人フィルム&ケミカルズ(株) 小川 太樹様が指名された。

第1号議案：平成29年度事業報告及び平成29年度収支報告

第2号議案：平成30年度事業計画（案）及び平成30年度収支予算（案）

第3号議案：定款変更 名誉会員、名誉会長および顧問について

第4号議案：名誉会員の承認について

第5号議案：役員改選、その他報告事項について

各議案とも満場一致で原案通り承認された。

記念講演：石谷孝佑理事長 「2035年の未来予測と食品包装」

食品包装シンポジウム（第52回）

日時：平成30年10月25日（木）9:20～16:45

場所：北とぴあ

参加者：有償参加者36名、招待14名 計50名

テーマ：日本の食品包装の脱ガラパゴス化 ～日本の包装技術を世界のスタンダードに～

- 導入講演： 日本食品包装協会 石谷理事長
- 基調講演：「農林水産物・食品の輸出促進と容器包装について」
農水省 食料産業局 矢部 努 氏
- 講演：「こだわりの容器包装開発とガラパゴス化」
キューピー(株) 技術ソリューション研究所 高山 崇 氏
- 講演：「東洋製罐におけるアクティブバリア容器開発」
東洋製罐(株) テクニカルセンター 藤田 江里子 氏
- 講演：「包装近未来メガトレンドを読み解く
ーカギは、循環型社会とデジタルネイティブな生活者ー」
有田技術士事務所 有田 俊雄 氏
- 講演：「包装機械産業について」 (株) フジキカイ 渡辺 幸次 氏

パネルディスカッション： コーディネーター・・・石谷理事長

食品包装人材育成講座

[初級]

日 時：平成 30 年 9 月 12 日(水)・19 日(水)・26 日(水) の 3 日間
場 所：北区王子・北とびあ 参加者：34 名(会員 32、非会員 2)
内 容：講師 9 名による食品包装関連初級講座
9 月 12 日講義終了後、講師・聴講者との懇親会を実施。

[中級]

日 時：平成 30 年 12 月 5 日(水)・13 日(木)・19 日(水) の 3 日間
場 所：北区王子・北とびあ 参加者：18 名(会員 17 名、非会員 1 名)
内 容：講師 9 名による食品包装関連初級講座
12 月 5 日講義終了後、講師・聴講者との懇親会を実施。

食品包装技術セミナー（前期）

日 時：平成 30 年 6 月 21 日(木)13:20～16:45
場 所：北区王子・北とびあ
参加者：有償参加者 40 名(内 認定証無料 1 名)、招待 9 名 計 50 名

- ◇講演 I：「乳等用容器包装の法規制の動向について」
(一社)日本乳容器・機器協会 技術統括委員長 小野 和也 氏
- ◇技術講演 II：「水性インクジェットインキ開発による環境負荷低減」
花王(株) アトバンストップリンティングソリューション事業開発部 部長 森山 伸二 氏
- ◇技術講演 III：「持続可能な開発目標 (SDGs) が軟包装業界にもたらすもの」
凸版印刷(株) 製造統括本部 エコロジーセンター環境政策部 部長 木下 敏郎 氏

食品包装技術セミナー（後期）

日 時：平成 31 年 2 月 25 日(月)13:20～16:45
場 所：北区王子・北とびあ
参加者：有償参加者 25 名(内、認定証無料 1 名、非会員 5 名)、招待 8 名 計 50 名
テーマ；～環境と紙容器市場～

- ◇講演 I：「国内外における紙容器の知財出願動向と展望（仮題）」
特許庁 審査第二部 小川 悟史 氏
- ◇技術講演 II：「液体紙容器無菌充填システム「SIG Combibloc」について（仮題）」
大日本印刷(株) 包装事業部 AP 本部 黒田 直宏 氏
- ◇技術講演 III：「紙製パッケージの環境対応の可能性と未晒クラフト紙を使った紙製パッケージの開発（仮題）」および「液体飲料用紙容器『IPI』（仮題）」
三菱商事パッケージング(株) 島田 賢一 氏、大門 徹 氏

研究例会

4月度研究例会

日 時：平成30年4月18日（水）13:25～16:45

場 所：北とぴあ

参加者：有償参加者20名（内 認定無償2名）、招待10名 計30名

◇製品紹介：I 「リッド部材不用の飲料紙カップのご紹介」

日本紙パルプ商事(株) 国際営業本部 国際事業推進部 課長代理 山下 猛 氏

◇製品紹介：II 「陽圧化が変える空調消費エネルギー量と室内温熱環境」

～ウインドナビ・システムの提案～ ウインドナビ(株) 代表取締役社長 金谷 嘉明 氏

◇技術講演：I 「レンゴーの環境経営と持続可能な開発目標（SDGs）の関係性について」

レンゴー(株) 環境安全衛生部 環境課 部長代理 山下 毅 氏

◇技術講演：II 「アジアを中心とした海外の医薬・食品包装用ヒートシール材の水系化ニーズと弊社の取組みについて」

三井化学(株) 海外マーケティングマネージャー Mr. Abhineet Shrivastava 氏

7月度研究例会

日 時：平成30年7月25日（水）13:25～16:45

場 所：北とぴあ

参加者：有償参加者33名（内 非会員6名）、招待9名 計42名

◇製品紹介 I：『「午後の紅茶」新ペットボトルの開発』

キリン(株) R&D本部 パッケージング技術研究所 田中 いくみ 氏

◇製品紹介 II：『特殊な印刷方法により独特の外観で上質感を演出「エビスマイスター」』

サッポロビール(株) パッケージング技術開発グループリーダー 門奈 哲也 氏

◇技術講演 I：『パッケージデザインによるおいしさの訴求』

(株) 味香り戦略研究所 研究開発部長 早坂 浩史 氏

◇技術講演 II：『軟包装用印刷インキの最新動向』

DIC(株) 分散技術1グループ 技術担当 茂呂居 直 氏

1月度研究例会

日 時：平成31年1月24日（木）13:25～16:45

場 所：北とぴあ

参加者：有償参加者数18名（内 認定証無料2名）、招待11名 計27名

◇製品紹介 I：「ガス吸着技術と水系コーティングで実現する、環境に優しい食品包装用機能性フィルムのご紹介」

サエス・ゲッターズ S.p.A 戸田 道夫 氏

◇製品紹介 II：「液体用ハイブリット高機能容器『CTカートン』のご紹介」

参加者：38名 合格者：24名（合格率 63.2%）

受験者全員に会員各社（味の素 AGF(株)、(株)ロッテ、ハウス食品グループ本社(株)、(株)クレハ、森永製菓(株)、キッコーマン食品(株)、キリン(株)、雪印メグミルク(株) 計8社）より供与いただいた商品をお土産（パッケージサンプル）として配布

展示会；Next Package2018 ～秋の陣～

日 時：平成30年11月15日（木）（10時～17時）

場 所：UDXカンファレンス・ギャラリー6F（秋葉原）

出展企業：包材メーカー14社、食品企業；4社 計18社（19コマ）

<出展協力企業>；

1. 押尾産業(株)、2. (株)悠心、3. DIC(株)、4. (株)精工、5. (株)武田産業、6. サエス・ゲッターズ S.p.A、7. 東洋インキ(株)、8. 三井・デュポンポリケミカル(株)、9. 日本テトラパック(株)、10. エコリーン日本駐在事務所、11. 藤森工業(株)、12. (株)ウェーブブロックアドバンステクノロジー、13. 東洋製罐グループホールディングス(株)、14. 大日本印刷(株)、15. 味の素(株)、16. ハウス食品グループ本社(株)、17. (株)明治、18. キッコーマン食品(株) 計18社（19コマ）

【来場者】

<会員>：DNP（16）、ハウス食品（16）、DIC（10）、味の素（7）、武田産業（7）等
計29社（126）

<品保研>：日本生活協同組合（3）、虎屋（2）、尾西食品（2）、中村屋（2）等計8社（13）

<非会員>：日本テトラパック（3）、三井デュポン（7）、カナエ（4）等 計16社（35）

<友好団体>：計6社（7）

出展企業関係者含め、計181名

以上